日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会　産学連携企画
（第 106 回塑性加工技術フォーラム）
「塑性加工のライバル技術最前線
－次世代車体製造を変えるギガキャスト、接合に学ぶ次の一手－」

日　時：2026 年 12 月 4 日（金）13:30～19:00
会　場：機械振興会館　ホール（地下 2 階）　［東京都港区芝公園 3 丁目 5 番 8 号　電話(03)3432-4579］
交　通：東京メトロ日比谷線 神谷町駅より徒歩約 8 分（アクセスマップ http://www.jspmi.or.jp/about/access.html）
主　催：日本塑性加工学会・日本鍛圧機械工業会
協　賛：日本機械学会，日本材料学会，日本鉄鋼協会，日本金属学会，軽金属学会，精密工学会，自動車技術会，
　　日本金属プレス工業協会，素形材センター，日本金型工業会 ，日本鋳造工学会
趣　旨：本フォーラムは、日本鍛圧機械工業会と日本塑性加工学会の共催による企画行事です。今回で第 106 回を迎える本フォーラムでは、塑性加工のライバル技術最前線をテーマに、次世代車体製造を変えつつあるギガキャストや接合技術に着目し、それらがもたらす変化と、塑性加工に求められる今後の方向性について幅広く議論します。さらに、本フォーラムは、塑性加工技術の研究開発に関して産学連携を深めることのできる内容となっています。講演会終了後に、講師や参加者同士の情報交換とネットワークづくりのための懇親会（参加費無料）を行います。

プログラム：開会の辞（13:30～13:40）　日本塑性加工学会産学連携委員長　浜　孝之君
　　日本鍛圧機械工業会専務理事　藤嶋　房子君
司　会　(株)日立製作所　佐藤　英樹君

時　間	内　容	講　師
13:40～14:30	**ダイカストの構成要素と今後の展望**：ダイカストのプロセスは独立ではなく、時間的、物理的に重畳して進行する極めて複雑なプロセスであり、現在においても未解明な領域が多い。本講演では、ダイカストを構成する様々な要素とそれらの相互作用の結果である製品品質や金型欠陥について概説するとともに、今後の展望について考察する。	岐阜大学 新川 真人君
14:30～15:10	**ギガキャストの技術動向と課題：**２０２０年に米国のテスラ社が世界に先駆けて、リアアンダーボディのダイカスト化を実現し、自動車業界やダイカスト業界に大きな衝撃を与えた。その後、新興電気自動車メーカーを中心に、大型一体成形ダイカスト品（ギガキャスト）の開発、採用が進んでいる。その動向と今後の展開における課題を紹介する。	リョービ株式会社 新田 真君
15:10～15:30	休憩　（休憩時間は、講師および参加者との情報交換にもご活用ください）	
15:30～16:10	**易解体/材料分離を念頭に置いた種々の固相接合技術**：著者らは、低温摩擦攪拌接合（FSW）、低温線形摩擦接合（LFW）、圧力制御通電圧接、固相抵抗スポット接合（CSJ）などの種々の固相接合技術を開発してきた。これにより、これまで接合が困難であった組合せの材料の接合が可能となるとともに、同時に分離技術も達成され、ニーズに応じた接合分離統合技術を確立した。	大阪大学 藤井 英俊君
16:10～16:50	**高付加価値化を実現する板鍛造技術の新展開：**板鍛造技術は、高精度ネットシェイプ成形による高付加価値部品の創製と、軽量化・工程集約化による環境負荷低減を実現する先進塑性加工技術として発展している。本講演では、板鍛造工法の高度化に関する最新の技術動向を概説するとともに、板鍛造が拓く塑性加工の新たな展開と今後の可能性について展望する。	岐阜大学 王 志剛君
16:50～17:00	閉会	
17:10～19:00	懇親会（会場：機械振興会館 地下 2 階「B2-2 会議室」）	

定　　員：60 名（定員になり次第締切ります。）
参 加 費：日本鍛圧機械工業会会員企業は無料。
テキスト：当日レジュメを配布いたします。
申込方法：別添の「塑性加工のライバル技術最前線－次世代車体製造を変えるギガキャスト､接合に学ぶ次の一手－」参加申込書（日鍛工会員様用）にご記入の上、メール（yoshimura@j-fma.or.jp）添付でお申込みください。
懇 親 会：参加費無料（講師，参加者と直接にお話しが出来る絶好の機会です。多くのご参加をお待ちしております。）
注　　意：講演中の撮影・録音は禁止します。